



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア：湾岸統一通貨導入の見通し (5月25日付アラブ・ニューズ紙)

25日付現地紙アラブ・ニューズ紙は、湾岸通貨同盟の見通しについて、次のように報じている。

1. 欧州の財政危機に端を発したユーロの対ドル低迷がきっかけとなり、GCC 諸国での統一通貨導入提案への検討が、いったん据え置きとなっている。
2. 経済情報会社の幹部は、現在展開している欧州での危機が、今後ユーロ通貨に悪影響を及ぼすものになるのかどうか、湾岸諸国のリーダーたちは注意深く見守っており、この影響がはっきりとしない限り、彼らが湾岸統一通貨導入について、性急に動くことはないであろう、と述べた。さらに、サウジアラビアが現在通貨同盟から撤退している UAE とオマーンのリーダーを再び交渉のテーブルにつかせることは、現在の一連のユーロ通貨低迷がネックとなり、当面難しいであろうと発言した。
3. 湾岸経済専門家は、ユーロと異なり湾岸諸国（注：クウェートを除く）はドルペッグ制をとっており、個々の国の経済パフォーマンスではなく、ドルに対する価値のみが重視されているために、統一通貨を導入したとしても劇的な効果はないだろうと述べた。また、湾岸統一通貨導入の時期は今後5年から10年以内になるだろうと語った。

【中東調査会注】

今年3月末、GCC 各国中央銀行総裁がクウェイトで通貨統合に関する会合を開催し、この際、クウェイトの中央銀行総裁は、世界金融危機が GCC 通貨統合を遅らせることはないと言明した。その約1週間後には、サウジ通貨庁 (SAMA) のムハンマド・ジャーセル総裁が、将来の GCC 中央銀行となる GCC 通貨評議会の議長に選出された。

その一方、5月末にカタルのハマド首相兼外相は、今後1~2年以内に湾岸統一通貨が発行されることはないという悲観的な見方を示している。